

遠隔授業での YouTube ビデオ配信の工夫とその効果

幼児教育講座・深田昭三

1. 分析対象とした授業

本報告では、昨年度に引き続き2回生科目の「言葉の指導法」を分析対象として取り上げた。この科目は、幼稚園教育要領における領域「言葉」の指導法を取り扱う科目であり、幼稚園1種免必修・2種免選択の科目であり、幼年教育専修及び保育士コースの必修科目でもある。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で、比較的受講生の多い本授業は、非同期型の遠隔授業で行うこととした。基本的には毎時間授業動画を作成し、moodleを經由してYouTubeで視聴してもらうこととした。

2. OBS を利用した授業動画の作成

OBS (Open Broadcaster Software) は、複数素材（カメラ画像、マイク音声、ウィンドウの取り込み、テキスト等）をリアルタイムで合成し、録画したり、YouTube Live 等で配信したりできる無料のソフトウェアである。

OBS はパソコン上の任意のウィンドウの画像をリアルタイムで取り込む機能（ウィンドウキャプチャ機能）を持っているため、たとえばパワーポイントの画像を取り込んで、動画像の任意の位置に配置することができる。

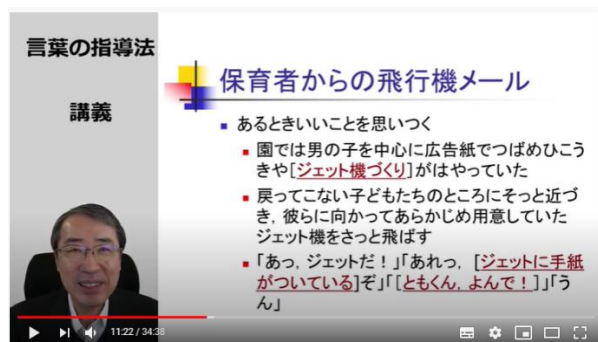
Tips 1

パワーポイントのプレゼンテーション画面を OBS に取り込むときには、通常のスライドショーの全画面表示にはせず、[表示] → [プレゼンテーションの表示] → [閲覧表示] と選ぶか、ステータスバーの [閲覧表示] ボタンをクリックして、ウィンドウ内でプレゼンテーションを行うと良い。

OBS 上で、パワーポイントの画像と、カメラ画像やマイク音声とを合成することで、手軽に、しかも高品質の授業動画を撮ることができる。

作成した動画は、比較的安価な動画編集ソ

フトである Adobe Premiere Elements に取り込み、不要部分のカットなどの処理を行った後、YouTube に限定公開アップロードしている。



Tips 2

Premiere を用いて編集するとき、どこが不要部分なのかを見分けるのは、なかなか難しい。言い間違えたりして後でカットしたい箇所では、意図的に10秒程度の無音時間を入れ、後で音声波形を手がかりにカット場面を見つけると、効率的に編集ができる。

3. 課題へのコメント動画の作成

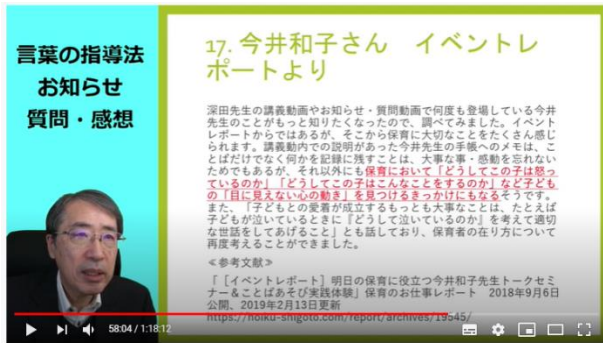
昨年度までの対面授業では、課題として授業への質問や、自分で発展的に調べたことなどをオンラインで提出してもらい、次の授業の冒頭で、数件を選んで答える方法を長らく続けてきた。

遠隔授業に移ってから、同じように質問をいくつか選んで答えていたが、リアルタイムではない利点を活かして、コメントを書いてくれた全員にコメント返しをすることができるのではないかと思いついた。

オンライン動画であれば授業時間の制限はないし、学生の方は、コメント返しの動画のうち、自分のコメントへの返答や気になるコメントへの返答だけを、自由に見れば良いからである。

第6回目授業から、この方法で授業動画とは独立してコメント動画を作成した。最初は

1 時間あまりだった動画だが、次第に長くなり、おおむね 1 時間半から 2 時間程度の動画となった。



4. moodle での課題提示

今回の遠隔授業では moodle に次の要素を貼り付けて、1 コマの授業とした。

- YouTube 動画へのリンク 2 つ (①授業動画, ②コメント動画)
 - 授業プリント (重要箇所は空白にしてあり、動画のスライドを見て穴を埋める)
 - 2 種類の課題 (①授業内容のまとめ, ②授業への質問や自分で調べたことを記入)
- 2 種類の課題のうち、①の課題は出席代わりで必須、②の課題は任意 (ただし成績評価の対象) とした。

5. 授業評価結果

2017 年度より、毎年同じ項目で授業評価をしてもらっている。2017 年度から 2020 年度までの授業評価結果は、図 1 及び図 2 に示した。

今年度の授業が遠隔授業になったものの、授業評価は例年と同じか、より高い傾向にあった。この 4 年間で最も評定値が高くなったのは、「授業の各側面についての評価」(図 1) では、10 項目中の 5 項目であり、「授業の工

夫点への評価」(図 2) では、5 項目中の 2 項目であった。とりわけ、「授業への質問・感想の入力と、次時でのコメントは良かった。」(感想文) は例年と比べても突出して高い評価となった。

自由記述では、「授業動画からは、深田先生の授業に対する熱意が感じられ、私も毎週真剣に取り組むことができました。また、深田先生の疑問や気になったことに対する好奇心や探究心を見習いたいと思いました。」と教員の熱意を評価する意見や、「毎週の学生の感想や質問に対し、丁寧に回答してくださったり、授業動画も細やかに作成してくださったり、熱意のこもった授業を提供してくださり、本当にありがとうございました。」など、質問への回答が丁寧であったとの意見が多く得られた。

4. これからの授業に向けて

本年度の授業評価結果から、遠隔授業であっても工夫をすることで、通常の授業以上に学生とのやりとりを活発にし、学生の満足度を高めることが可能であることが分かった。

一方で、動画作成のためには相当な時間を要することも事実である。今回、授業動画を作るのに要した時間は、毎回 10 時間をはるかに越えた。一つには、毎年使っているパワーポイント資料を、遠隔授業向けに改訂するために多大な時間を要したこともあるが、やはり動画作成にも少なからぬ時間を要したことも事実である。

このような苦勞をしつつも、学生たちがさまざまな興味をもって調べたことを、一人残らず取り上げ、コメントを返しつつ思う存分語りができたのは、教員にとっても至福の時間であった。

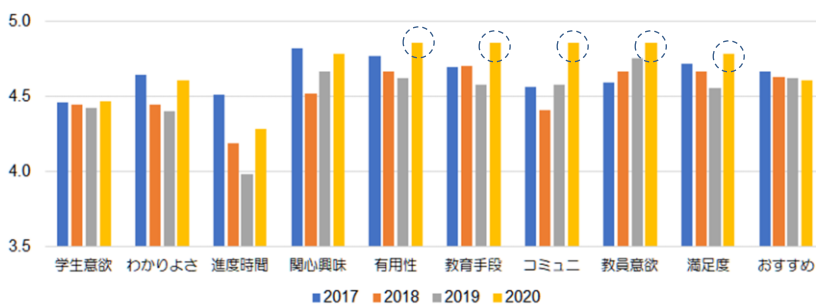


図 1. 授業の各側面についての評価

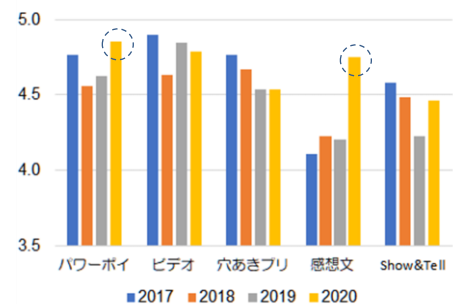


図 2. 授業の工夫点への評価